



1万食分の蒸気釜



学校給食センター完成

安全安心で衛生的な



学校給食課

66 1800

蒲郡市の学校給食は、昭和18年、蒲郡南部国民学校（現在の蒲郡南部小学校）で県下初の副食給食として始まりまし。その後、市内各小学校・中学校において単独方式（各学校で調理）の学校給食が行われ、昭和45年に蒲郡市東部学校給食センター、昭和49年に蒲郡市西部学校給食センターが完成し、共同調理場方式に改められました。現在では、両センターで合計9千400食の給食を調理しています。

しかし、両センターとも建設後30年が経過し、施設・設備などが老朽化してきました。それに加え、O-157食中毒事件を契機に学校給食施設の衛生管理のあり方が見直されるなど、新しい学校給食センターの建設が急務となりました。

これを受け蒲郡市は、平成14年度に東西の両センターを統合した新学校給食センターの実施計画を作成、15年度から建設に着手し、このほど完成しました。

9月1日から、皆さんの学校や保育園に新学校給食センターで作ったおいしい給食をお届けします。

新給食センターのスゴイところ

ドライフロアーシステムの採用

今までのウェットシステム（床をはじめ、機器などをすべて水で洗い流す方式）からドライフロアーシステム（床を常に乾いた状態に保持する方式）に改めました。安全で衛生的な環境、機能的で快適な作業環境などを考えた施設です。

強化磁器食器の導入

従来のメラミン食器は、表面硬度が高く、傷や汚れがつきにくいなどから洗浄作業などの取り扱いがしやすい反面、4年程度過ぎると漂白による劣化および色